

平成28年度 第三回我孫子市放課後対策事業運営委員会

●日時 平成29年2月24日（金） 午前9時30分から午前11時30分

●場所 我孫子市役所 教育委員会4F大会議室

●出席者

委員 長谷川敬一（委員長）、北原靖子、佐藤哲康、菌部文、前田由美、榊原憲樹、浦島誠、
海老原 広哲、小林まり子、並内千緒、吉成正明、鈴木雅人

事務局 コーディネーター：大塚美香子、野原明美、佐藤里美、池上真千子、河村千春、
清水かほる、大野敦子、飯塚章江、阿部美代子

子ども支援課：山澤賢司、小野佳子

* 議事録作成のための録音許可について

* 資料確認

●会議概要（要約）

開会

- ・議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいでしょうか。[異論なし]
- ・本日は、傍聴人の届け出はありませんでした。

【委員長】

それでは、議題の1番目、あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について、それぞれから報告をしていただきたいと思います。

まず、湖北小学校の運営についてご報告をお願いします。

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

(1) 湖北小学校の運営について

【委員】

それでは、10月から現在までのあびっ子クラブでの様子についてお話しします。

10月中旬から日没時間が日に日に早くなり、11月から1月の末までの間、4時30分にあびっ子クラブを閉室といたしました。あびっ子クラブで遊べる時間が少なくなり、平均して24名から25名くらいの低学年1年生、2年生、3年生が利用することが多くなりました。部活動のある4年生以上のお兄さ

んお姉さんのお迎えを待つ場としての役割にもなってきました。ただ、短縮日課の時は高学年の子どもたちも来てくれますので、45名から50名ぐらいになる日もあります。

前回お話ししたカプラという薄い板のおもちゃの人气が高く、カプラの入っている箱の上にお城の絵があり、そのお城の絵を子どもたちが見よう見まねでつくり上げたりしています。自分の背丈よりも高くカプラの板を丸く積み上げたりと、非常に楽しんで遊んでおります。

12月からは土曜日の利用が少なくなってきたということもあり、学童保育室と一体的に運営をするようになりました。冬休みに入り、12月は20名ぐらい、お弁当を持ってきた子は10名ぐらいの利用でした。1月はさらに減りましたが、毎日4、5名の子どもたちが朝からお弁当を持って遊びに来てくれました。

新学期になり、1月から新しいチャレンジタイムが2つ始まりました。けん玉とサポーターさんによる工作教室です。先日、工作教室のときにつくっていただいた指トンプを、学校の体育館を利用させていただき飛ばして遊びました。また、ハーモニカの演奏を聞かせてくださる方がサポーターになってくださり、子どもたちにもハーモニカの演奏を聞かせてくれることになりました。3月からは、地域の方によるお琴のチャレンジタイムも始まります。

湖北小の子どもたちは、つくったり、体験したり、挑戦したりといった、チャレンジ精神が旺盛なので、チャレンジタイムに、毎回常連さんが必ず1番、2番で楽しみにいつも来てくれています。

校庭で遊ぶことも子どもたちはとても大好きです。2月は非常に風が強い日が多く校庭で遊べる日が多くはなかったのですが、遊べる日は、男の子はサッカーが大好きなので、ほかの子どもたちと譲り合いながらサッカーをし、縄跳びや長縄跳び、鉄棒も今は1年生や2年生が練習をしています。とても元気に体を動かして遊んでいる姿が見られます。

3月は千葉県防犯協会主催の安全教室があり、ロボットのペッパー君が来てくれて、子どもたちにいろいろな話を聞かせてくれるようです。また、春休み中には学童保育室と合同で消防署の方に来ていただいて、避難訓練を行う予定です。今はそのような状態で子どもたちと過ごしております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。今のご報告について、何かご質問や、ご意見ございますか。今、湖北小の校長先生もいらっしゃいますが、学校との連携はどうですか。

【委員】 教頭先生が窓口になっていただいています。体育館をお借りするのも突然でしたが、「あいてますのでどうぞ」ということで、快く貸していただきました。何かありますと、教頭先生にいつも相談をさせていただいております。非常に助かっております。

【委員長】 ありがとうございます。先生、いかがですか。

【委員】 今年あびっ子クラブを設置していただき、今、子どもたちは、どの学校もなかなか異年齢で接する機会というのが少ない中で、放課後、子どもたちが本当に笑顔で、お兄さん、お姉さんが小さい子

の面倒を見て、すごくいい風景を、豊かな心を育成していただいていますので、本当に感謝申し上げます。
ありがとうございます。

【委員長】 ありがとうございます。ほかにございますか。

それでは、続いて、我孫子第四小学校の運営についてお願いします。

(2) 我孫子第四小学校の運営について

【委員】 今年度の四小のあびっ子クラブの様子をお話ししたいと思います。

今日は写真をお持ちしましたので、よかったらご覧ください。子どもたち主催のお楽しみ会やお祭り、コンサート、ハロウィン、クリスマス会や季節の行事、豆まきなどにも力を入れてきました。スタッフが与えるのではなくて、子どもたちのやりたいことをスタッフがサポートして実現するために、幾つか難しいこともありました。やっぱり、いろんな学年の友達とたくさんの経験をすることによって、今は自分でアイデアが浮かんで、次は何をやるのかなということを考えています。

2学期までは、高学年の子どもたちも部活の休みや部活の終わった時間に必ずあびっ子クラブに顔を出してくれて、おもちゃで遊ぶのではなくて、自分が何かあびっ子クラブのためにやれることがないか、ということが子どもたちから出てきたのはとてもうれしいことでした。

3学期は、低学年だけの日も随分増えてきて、だんだんと寂しくなっている部分があります。

3月には、6年生のお別れ会をしてほしいと6年生からリクエストをもらったので、今、3年生が中心に計画を立てているところです。

これからも子どもたちの声に耳を傾け、スタッフみんなでサポートしていきたいと思っています。

四小は、あびっ子クラブと学童保育室のお部屋が少し離れているので、なかなか毎日交流することができず残念ですが、囲碁や剣玉、お話しタイムなどのサポーターさんのチャレンジタイムも人気なので、チャレンジの日に学童の子どもたちがあびっ子クラブに遊びに来ることが多くなっています。

資料1をご覧ください。今、あびっ子クラブではまだ1回しか実現できていないのですが、学童保育室では、会社が力を入れている「いじめのない子ども総合プラン」の狙いに沿って、スタッフが1カ月に1回、時間のあるときに絵本の読み聞かせをしています。友だちの大切さや友だちとの仲直りについて子どもたちと一緒に考えながら、毎日の学童保育室での生活が安心して過ごせる場所になるようにみんなで努力しているところです。

学童保育室のリーダーからは、子ども同士は日々けんかもありますが、この活動をやり始めてから、自分たちで話し合って解決している姿もあって、いつも大人が介入してしまうのではなく、スタッフは子どもたちの見守りに控え、そして、もっと思いやりの気持ちを育てていきたいという感想をもらいました。

四小はとにかく子どもたちの人数が多く、けががなく毎日を安全に過ごせるようにと気を配ることで精

いっぱいなどありますが、子どもたちと読み聞かせやゆっくと話す時間をつくることによって、少しでも子どもたちの困ったことや言いにくいことも言える安心した環境をつくりたいと考えています。

29年度はまたたくさんの新1年生が入学してくるので、学童保育室のリーダーたちと不安はあるけれどみんなで協力して立ち向かっていこうと話をしています。

まだまだ四小はわからないこともあってご迷惑をおかけしますが、またよろしく願いいたします。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。四小は2年前から公設民営ということで民間の企業さんに学童保育とあびっ子クラブの運営を委託しています。その中で会社の活動として、こういういじめのない活動をしているというようなことです。今の報告についてご意見、ご質問等ございますでしょうか。どうぞ。

【委員】 当大学の学生が夏休みなどで勉強させていただいたりしてありがとうございます。地域のサポーターさんや学生さんなど、これまで地域の中でいろんな人たちが中に入ってきていたと思いますが、実際どういうふうに活動されていたり、今後どういう形で展開されるのか教えていただけますか。

【委員】 四小も同じようにサポーターさんが来てくださっているのです。囲碁や将棋など、チャレンジタイムにはサポーターさんが来ます。また、地域から見守りに来てくださる方もいらっしゃるのです。そのあたりはほかの学校と変わりないと思います。在籍児童のお母さんなどが、講師で子どもたちに手芸などを教えてくれたりということもあるのでとても助かっています。

【委員長】 ほかにございますか。では、次に移ります。

(3) 並木小学校の運営について

続いて、並木小学校の運営について、事務局からご報告をお願いします。

【事務局】 2月に行われたイベントのことについてお話をしたいと思います。

先ほど湖北小あびっ子クラブからもお話しがあったように、防犯協会の方が来ていただく防犯教室というのが行われました。それは、ソフトバンク社のロボットのペッパー君がやってきて、防犯協会の方がペッパー君を使って防犯のお話をしてくださいました。お話としては、防犯の合い言葉で「イカのおすし」というのがあり、それを子どもたちにわかりやすくということで、クイズ形式でペッパー君のクイズに子どもたちが答えるというような形で行われました。

当日は、木曜日で3年生までが5時間授業で4年生以上が6時間授業という日課でしたので、あまり遅い時間になっても困るので3時15分からということで始めました。学童保育室の子とあびっ子クラブの子と合わせて約40名が参加いたしました。

最初に、ペッパー君が子どもたちの心をつかむのに歌って踊ってくれました。曲が4曲ぐらいあり、スタッフで選ばせていただいて、AKBのフォーチュンクッキーを、歌って踊るところがありました。ペッパー君は、歌って踊る前に自分の身の回りを安全かどうかぐるっと自分で見て回るのですが、ロボットだ

けに上を見たり、下を見たり。そうすると子どもたちが、「もう大丈夫だよ、踊っていいよ」なんていう声
が上がるぐらい子どもたちは興奮していて、本当に大興奮のうちに歌って踊るところが終わりました。

その後に防犯のお話に入り、そのぐらいの時間にちょうど高学年の子どもたちが帰ってくる時間になっ
てしまい、お迎えや、帰る時間になってしまったりと、一番防犯協会の方たちにしてみたら聞いてほしか
ったであろう時間帯に、子どもたちがばらばらと帰ってしまったのがとても残念なところでした。本当で
したら、1日保育のような時間の長いときに、午前中やお昼を食べた後など、みんながそろって見られる
ときだったらよかったなというのが反省点でした。これからされるあびっ子クラブもあると思うので、そ
の点をちょっと注意したほうがいいかなと思いました。

クイズは4問あって、代表の子だけがペッパー君のタッチパネルに触れるということでしたが、支援級
のお子さんたちもたくさん来ていて、どうしても触りたいと、3問目まで一生懸命手を挙げるんだけど当
ててもらえずに、もう泣き崩れるようになってしまう子もいて、でも、最後の4問目に防犯協会の方も気
づいてくれて当ててくださって、運よくタッチをすることができました。そのお子さんもペッパー君に会
えるということで前の日からお手紙を書いてペッパー君に渡したいと持ってきてくれました。終わった後
も、箱に入るところは見せられないので、後でペッパー君に渡しておくねというような、そんな話もあり
ました。

子どもたちにはどういうふうに宣伝しようかなと思ったときに、「ペッパー君と遊ぼう」という表題をつ
けてしまったので、子どもたちの中にはもっと遊べると思ったというのが正直なところで、何だ4人しか
触れないのかというのが子どもたちにとってはあったようです。防犯教室というかた苦しくてなかなか
来ないかなと思ってペッパー君と遊ぼうという表題をつけてしまいました。その辺ももうちょっと考え
たほうがよかったかなというのが反省点です。

並木小は今、ほかの小学校もそうだと思いますが、インフルエンザがはやって利用は少なくなっていま
す。並木小のあびっ子クラブのサポーターさんはほぼ見守りの方ですので、必ず毎日のようにどなたかが
見守りの方がいらしてくださって、それはとても助かっています。ただ、チャレンジをしてくださるサポ
ーターさんがなかなかあられないのが悩みの種の1つです。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ただいま並木小の運営についてご報告いただきましたが、これに
関してご意見、あるいはご質問等はございますか。

(4) 湖北台東小学校の運営について

それでは、続いて、湖北台東小学校の運営について、事務局からご報告をお願いします。

【事務局】

湖北台東小学校では今年、昨年に引き続いて、NPO団体パコモさんの協力で絵本をつくるということ

をしています。昨年は湖北台西小学校でつくらせていただきましたが、今年は東小でつくりました。

絵本は30部ほどでき上がっていて、子どもたちが全部絵を描いてつくりました。この絵本だと皆さんのところにはちょっと見にくいと思うので、これを大きくした紙芝居を持ってきましたので、やらせていただくかと思えます。

これは、今年の9月17日から全10回に渡り、大体2週間に1回ぐらいのペースで行われ、2月18日に完成いたしました。2月18日に地域の方にも来ていただきお披露目会を行い、新聞社の方も取材に来ていただき、東京新聞、読売新聞、朝日新聞の3社の取材を受けました。2月19日の日曜日に読売新聞と朝日新聞に掲載していただきました。2月22日に東京新聞に掲載していただきました。東小学校の子どもたちの顔が写り、子どもたちの発言が出、お母さんたちは喜んでおりました。

では、子どもたちの描いた絵をごらんになりながら、この紙芝居を見ていただきたいと思えます。

これは、星野七郎さんという湖北座会を主催していらっしゃる方で、湖北の湖北村の歴史をずっと調べていらした郷土史家の方がいらしゃって、すでに亡くなった方ですが、その人の湖北村誌の中に湖北の昔話ということで、わずか1ページにも満たないような短い話がありました。その話をもとに構成し直したものです。ですから、もとの話は星野七郎さんの昔話からとっています。

その昔、手賀沼に大男がやってきたというところまでは一緒ですが、大男が昼寝の後におしっこをして、そのおしっこが手賀沼になったという話がもとの話です。おしっこの話にしちゃうと、そこから先、子どもは話が続かないと思ひ、その辺をちょっと変えてあります。

*** (紙芝居朗読) *****

手賀沼のできたわけ。昔あるところに大きな大きな男がいた。名前をがまんがしょうといった。がまんがしょうは大層な力持ちだったので、あるとき自分がどれほどの力持ちか試してみようと思った。そこで、もっこの中に小山を一つずつ入れると、てんびん棒の両方にぶら下げて、どっこいしょと担ぎ上げた。そうして、南の国から北に向かって歩いて行った。

がまんがしょうが東の国に入り手賀のあたりまで来たとき、広い平らな草っ原に出た。湖北と手賀の間には今までは手賀沼があるけれど、そのころはまだ水はなく、広い青々とした気持ちよさそうな草っ原だった。がまんがしょうがふうっと息を吐き出すと目の前に青々とした真っ平らなところが広がっていた。ここは一休みするにはとてもいいところだ。風もそよそよと吹き気持ちがいい。

そこで、てんびん棒を肩から外すとごろりと横になった。何しろ大きいものだから、ごろりと体を伸ばして眠れるところはなかなかなかった。これはよいところを見つけたと、がまんがしょうはぐっすり眠った。久しぶりにぐっすりによく眠った。

どのぐらい眠ったものかはわからない。すーすーと気持ちよさそうに眠っている体に、あれあれ、ぽつぽつと雨粒が落ちてきた。がまんがしょうは目を覚まして空を見上げた。空には黒い雲がいっぱい、今

にも手を伸ばせば届きそうに低くなってきた。雨が降るのかと思ったが、久しぶりに広いところでぐっすり寝られたので、雨に濡れるぐらいは構わん、もっと寝ていよう、そう思っでごろりと寝返りを打つと、雨は次第に強く強く降ってきた。

やがて、大きな雷の音が聞こえてきた。雷の音はすさまじく、天にもとどろくようだった。雨も激しくなり、聞こえるものは雨と雷の音だけになった。しばらく我慢していたが、雨と雷の音があんまりやかましいものだから、だんだん腹が立ってきた。そして、ふわりと立ち上がった。

立ち上がると頭は黒雲の中にすっぽりと隠れてしまった。雲の中をぐるりと見渡すと、どどこ雷太鼓を打ち鳴らし、ぴかぴかと光る稲妻を投げつけている雷を見つけた。おーい、雷、俺は広いところでやっとうっくり眠れたのだからもう少しゆっくりさせてくれ、どこかよそで暴れてくれと言った。

雷だっで気持ちよくどろどろと太鼓をたたいて暴れていたところへ突然大きな男があらわれたので驚いた。大きな目玉がぎよろぎよろと雲の中にあらわれて、どこかへ行けと言う。おまえは誰だ。雷は怒鳴った。俺はがまんがしょうだ。がまんがしょうだと。俺は雷だ。雨を降らせて雷を落とすのが役目だ。がまんがしょうなら我慢しろ。いや、我慢なんかできん、今すぐどこかへ消え失せろ。何を、やめるものか、おまえこそどこかへ行っでしまえ。もうけんかになってしまった。

大男は雷の黒雲の中にてんびん棒を突き刺してぐるぐるとかき混ぜた。雷は雲の中をかき混ぜられたことなんかないから目を回しそうになった。雷はぐるぐる回りながら黒雲に乗っでどどん雷を落とした。あたりは稲光でぴかぴかと光、大雷が次々に落ちた。

大男はてんびん棒に乗っできた小山を大きな手で丸めて雷に向かっで投げつけた。大男の大きな足は青々としていた草を踏みしだき、平らだった草っ原をべこべこにへこませっでぐちゃぐちゃの泥にしていった。やがて2人の大げんかの跡のへこんだところに大水がたまり、今の手賀沼になったということだ。

そして、大男が雷に投げつけた小山は、湖北台の島原になり、今、東小が建っでいるあたりになった。投げつけずに残った小山は沼南町の丘になった。がまんがしょうはあたり構わずに投げつけたものだから、今でもあちこちに丘になって残っでいる。そこが五本松や湖北台の丘になった。さあ、それから先、がまんがしょうがどこへ行っでしまったのか、どうしたのかは誰も知らん。昔、昔の話だ。

おしまい、という見開きで、この紙1枚が75センチ掛ける109センチという模造紙よりちょっと大きいかなぐらいの紙に子どもたちが描いた絵です。中には1人で書き切れずに合作して書いたということもあり、延べ20人近い子どもたちが15枚の絵に取り組んだという仕立てになっています。

このチャレンジは土曜日におこなったので来る子どもの数も限られていましたが、全員が全部出席したわけではなく、ポイントポイントで出っで描いたりなんかもしっていました。

東小からの報告は以上になります。ありがとうございました。

【委員長】 今、湖北台東小の取り組みについてご報告いただきましたが、この件についてご意見、ご質問等ございましたら伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。指導課の先生、いかがですか、今の取り組みについてということ。

【委員】 あびっ子クラブ、学童保育室のお話を聞いて、やはり、それぞれ子どもたちにとっては楽しいイベントを企画しているんだなというふうに思いますが、もっともっと子どもとスタッフが一体となって、学童保育室とあびっ子クラブが一体となってやれるようになると、もっともっと子どもたちの集まりもよくなるのかなというような気はいたしました。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ほかにございますか。

それでは、2番目の議題に移らせていただきます。放課後対策事業の進捗状況についてということで、(1) 学校支援コーディネーター研修について、事務局からご報告をお願いします。

2. 放課後対策事業の進捗状況について

(1) 学校支援コーディネーター研修について

【事務局】

それでは、学校支援コーディネーター研修についてご報告させていただきます。

昨年12月8日木曜日に県教育委員会主催の学校支援コーディネーター研修講座の2期の研修を一小あびっ子クラブで開催いたしました。

当日は、近隣市で放課後支援の現場で携わっている方や市の職員の方が松戸市から7名、柏市から2名、印西市から2名、県から2名など15名の参加がありました。当日、市からあびっ子クラブの概要説明をさせていただきました。また、並木小の佐藤コーディネーターから一小あびっ子クラブの様子などの説明を行いました。その後、メインルーム、図書館、体育館等でチャレンジタイムの様子を参観されていきました。

参加者からは、多くのサポーターさんが参加されていることに感心され、細やかな配慮のもと子どもたちが生き生きとした放課後の活動につながっている様子がうかがえるとの感想をいただいております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ただいまのコーディネーター研修について、何かご質問、ご意見等ございますか。

それでは、(2) 新木小あびっ子クラブの進捗状況について、事務局からお願いします。

(2) 新木小あびっ子クラブの進捗状況について

【事務局】 新木小あびっ子クラブの進捗状況についてご説明いたします。

新木小あびっ子クラブの建設工事については、6月8日付で本体及び電気工事の請負契約を締結し、昨年12月28日に完成いたしました。その後、内覧会として、年が明けて1月23日に学校側への説明会、2月17日に学童保育室の父母会への説明会を実施いたしました。

現在、3月1日のオープンに向けて、備品の購入や、来週の2月27日には不審者対策のパニックボタン設置等の設備工事を進めております。

12月1日付で異動となりました新木小あびっ子クラブのコーディネーターの阿部から、オープンの準備の詳細についてご説明をしていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

【事務局】 新木小あびっ子クラブのコーディネーターになりました阿部と申します。現在の今時点でのあびっ子クラブオープンへの状況をご説明したいと思います。

今、説明がありましたが、建物と備品等については完了しております。2月10日にパソコンも設置していただきましたので、具体的な作業に取り組んでいるところです。学校にも挨拶に伺って、名簿の提供などご協力をいただき、今その打ち込み、それからお子さんたちの手続する際に必要なお名前をマグネットにつけたり、それからリストバンドにつけるマジックテープに書いたりという作業をしております。また、室内も少し装飾をさせていただき、少しでも明るい気持ちでお子さんたちが遊びに来れるようにできたらいいと思って進めているところです。

また、学童保育室の保護者にもあびっ子クラブの利用についてということで、学童からあびっ子クラブを利用する場合の注意事項などをお手紙に出したり、また、2月17日の保護者会の際に内覧をしていただきながら説明をいたしました。

今週の水曜日に、1年生たちの受付のやり方の練習を学校の先生と一緒にあびっ子クラブに来ていただいて、実際に説明をして代表の子にやっていただきました。それと、きのうはあびっ子クラブだよりを印刷させていただいて、来週早々に配布していただくことになっています。

室内は、今週でほぼ全てのことを終わらせて、来週は子どもの目線で危ないことはないかということを確認して、28日最終日にはいつでも来ていただける状態にして、3月1日にお子さんたちを受け入れたいと思っています。

今のところサポーターさんの登録はありませんが、これから徐々に行っていき、ご協力を地域の方にもお願いしたいと思っております。

以上、ご報告させていただきました。

【委員長】 ありがとうございます。新木小のあびっ子クラブの進捗状況ということでご報告いただきました。3月1日から新たにオープンするということになっております。今のご報告についてご質問ご意見等ございますか。

ちなみに、新木小で市内13校の小学校のうち12校があびっ子クラブの設置が完了します。残る布佐小学校ですが、平成29年度に整備をして平成30年度にオープンという予定でいます。これで全13小

学校全てにあびっ子クラブが設置できるという形になります。

それでは、続いて、小学生の放課後支援についてということで、事務局からご説明をお願いします。

(3) 小学生の放課後支援について

【事務局】 ご説明いたします。

小学生の預かり保育事業は、私立幼稚園で実施している預かり保育事業について、小学生低学年の児童に拡大して補助事業として平成27年度から実施しているところです。平成27年度と28年度では、湖北白ばら幼稚園さんに事業を実施していただいています。

平成29年度からですが、こちらを私立幼稚園だけでなく私立保育園でも事業を開始できるように現在要綱を改正しているところです。補助金額等については、これまで実施している補助額と変わらず、補助対象経費から利用料金などを控除した額と平均利用者数に基づく基準額を比較して、少ないほうの額で1月当たりの学童の預かり保育の平均利用者数に応じた月額合計額としております。

現在、台田地区にありますあびこ菜の花保育園さんから事業にご賛同いただいております。来年度から事業を開始していただけるというお話をいただいております。また、幼稚園では、白山にありますめばえ幼稚園さんにも新たに小学生の受け入れを実施していただけるとご連絡をいただいております。

どちらも現在募集をしており、ポスターを掲示したりしています。めばえ幼稚園さんではごきょうだいなどが在園している方、または卒園児が対象と限定はされておりますが、在園児の方に案内を配ったところ、反響があるとご連絡をいただいております。菜の花保育園さんについては、きょうだい限定や卒園児限定ではなく、根戸小学校、第四小学校の学区の子どもたちであれば、ご希望があれば受け入れると伺っております。

四小学童保育室においては、市内でも非常に入室児童が多く、学童保育室でも定員いっぱいの状況になっておりますので、白山地区、台田地区で少しでも待機児童の解消や、保護者の選択肢の1つとして取り入れていただけないかと期待しております。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ただいま小学生の放課後支援についてご説明いただきましたが、この件に関してご意見、ご質問等はございますか。

それでは、続いて、学童保育室及びあびっ子クラブの公設民営化について、事務局からご説明をお願いします。

(4) 学童保育室及びあびっ子クラブの公設民営化について

【事務局】 それでは、公設民営化についてご説明いたします。

現在、我孫子第四小学校で公設民営化をしているところですが、平成29年度、30年度に向け、根戸

小、我孫子第三小学校で民間事業者に運営を委託することになっております。

今回の委託については、市で実施しています提案型公共サービス民営化制度からの提案により事業が採択され、事業化となったものです。

資料2の1ページは、提案型公共サービス民営化制度についての説明です。市の全ての事業を公表し、民間から委託・民営化の提案を募る制度です。提案は民間のアイデアや工夫が盛り込まれ、コストやサービスの質の面から市が実施するより市民にとってプラスとなるものに限られております。先ほども申し上げましたとおり、これまでに四小の学童保育室とあびっ子クラブの運営委託をはじめ、国民健康保険と後期高齢者医療の窓口業務の総合委託、公共施設の管理業務の包括委託などが採択され、事業化されております。

審査は外部の委員で構成された審査委員会が4つの審査基準で決めております。提案の独自性、市民サービスの向上につながるかなどの市民の利益、実現性の高い内容になっているかの実現性、事業を担う体制、能力を有しているかの団体能力などにに基づき、提案の採否を決定しております。

今回、根戸小、三小に提案のありました事業者は、全国で児童館35施設、学童保育107施設の運営を受託するほか、学校給食や図書館などの受託もしており、近隣市では八千代市や佐倉市で学童保育室の運営をしております。

なお、事業者からの提案は、根戸小、我孫子第三小2校の運営委託を同時にという提案でありましたが、我孫子第三小学校の学童保育室について、平成29年度内に施設を増設する関係から、増設後の平成30年度からの実施としております。根戸小については、平成29年度から開始いたします。

2ページをごらんください。提案の具体的な内容について記載しております。平日放課後の開室時間の延長、学校休業日の開室時間の繰り上げ、1日保育時のお弁当の手配、運営プログラムの充実などでした。

市としては、運営委託の後に、環境の変化に伴い子どもたちに負担を与えないよう、現在の保育内容を委託事業者が引き継ぐことを第一に考えていただき、新しいプログラム等については、運営状況が落ちついた後に保護者と協議しながら提案していくように事業者にはお願いをしております。

3ページをごらんください。こちらは今までの経過について記載しております。根戸小を中心に説明させていただきます。提案型公共サービス民営化制度の提案募集期間が昨年の7月1日から9月30日になっておりました。審査委員会が10月23日に開催され、審査結果が11月7日付で採択をされました。

このことを受け、市では11月17日に根戸小父母会の役員の方にこの旨をお伝えし、12月3日の父母会総会に急遽参加させていただき、運営委託についてご説明をいたしました。その際、あわせてアンケート調査を実施させていただきました。運営委託自体が突然なこともあり、アンケートによる保護者からのご意見の多くは、提案型公共サービス民営化制度の採択後の委託実施までの過密なスケジュールに対する不満や委託後の運営体制に対する不安が主でした。

市では4月からの運営委託実施に向け、提案型公共サービス民営化制度についてのご説明や事業者の委

託までのスケジュール、提案サービスの詳細について情報提供を行い、不安解消に努めました。

1月28日の説明会において、保護者に説明をさせていただき、4月からの実施についてご理解を得ることができております。現在、4月の実施に向けて準備を進めているところです。

三小については、1月21日に父母会へ参加させていただき、平成30年度からの運営委託の概要についてご説明をしております。

現在、委託事業者のスタッフの採用状況としては、市の嘱託職員、臨時職員から転籍者が8名、委託事業者の社内異動と、新規採用が10名ということで、18名体制で行っていくという報告がございました。

また、現在、保護者の負担軽減として、父母会の運営、役割等を父母会の役員と事業者との間で話し合いを今後進めていきたいということのお話もございます。

今後、運営状況については、こちらの運営委員会で随時ご報告させていただきたいと思います。

以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ただいま根戸小、三小の学童保育室及びあびっ子クラブの運営委託についてご説明がありましたが、このことについてご質問等はございますか。

【委員】 今初めて伺ってびっくりしていますが、審査委員会というのはこの放課後対策事業委員会より上の機関で、ここはその報告を聞く場所ということですか。このような重要な話は、本来はこちらの委員にも聞かせていただきたかったという気もしますし、あるいは有識者の審査委員会にこちらの中からメンバーが何名入っていますなど、それぐらいは報告をいただきたいと思います。

【委員長】 提案型公共サービス民営化制度については総務課で所管しているものになります。そこで委員については専門の委員さんをお願いしているということです。放課後対策事業からは、鈴木幸子さんが委員として1名、選考委員会で委員として参加しています。放課後対策事業運営委員会への報告が今日になってしまったというところは大変申しわけありませんが、提案が採用されるまで外に漏らせないというような状況もあり、そのあたりで根戸小の保護者の方々にも迷惑をかけてしまったということもあります。今後早目に報告できるように改善していきたいと総務課でも考えているようですので、また来年以降、もし提案型で上がった場合には報告をしていきたいと思います。

それと、三小については平成30年度からということで、1年間猶予がありますので、この運営委員会の中でも状況を報告していきたいと思っております。

【委員】 今後のビジョンというのが多分あると思いますが、それは、総務の審査委員会では話し合われているのか、例えば、今後、このような運営委託を全校に向けて積極的に進めていこうと考えているのか、ここの場でもご報告いただきたいと思います。

【委員長】 これはたしか、以前にもお話ししたかと思いますが、学童保育、あびっ子クラブについて市の考え方としては、基本的には公設公営で考えています。ただ、提案型公共サービス民営化制度も市全体で推し進めている制度ということもありますので、その中で、学童、あびっ子クラブを運営したいとい

うことで提案が上がってきたならば、それは審査の対象に上がります。利用者にとってメリットがある提案ということであれば、それが通っていくということで、その部分については民営化をしていくというような形で考えています。

【委員】 企業というか、参入したいというところが提案をしてきたときに、いわば、受け身な形で考えていることであって、基本は公設公営ですか。

【委員長】 はい。

【委員】 先ほどの委員会とその審査会の関係ですが、あびっこクラブサポーターの鈴木さんが委員として選ばれたのは大変にいいことだと思いますが、その選び方は、例えば、学童保育の連絡協議会の代表の方だっというわけ、どういう基準で選んだのか一応教えてください。

【委員長】 学童保育室やあびっこクラブの関係者を入れてくれという話がありましたので、子ども支援課で鈴木さんをお願いしたということです。

【委員】 今後の話だと思いますが、やはり、こういう委員会もせつかくあるのですから、放課後対策事業運営委員会の中で、こういう人を出すべきという議論をきちんとしていくことがいいと思いました。

【委員長】 スケジュールの関係もあると思いますが、そういうことは関わっていけると考えます。ほかにございますか。

それでは、3番目の一小あびっこクラブにおけるDVDの発表について、これは、北原先生と佐藤先生からお願いします。

3. 一小あびっこクラブにおけるDVDの発表について

【委員】

前回の委員会でも少しご紹介しましたように、川村学園女子大学の地域の連携として、ささやかながら放課後のあびっこクラブに応援をさせていただいております。

今年度、教育研究奨励をとって、研究調査でつくったものがありますので、ご紹介しがてら今のお話なども含めて、まだまだこういう委員会課題があるのではないかとこのも少しお話しできればと思います。

まずは、今年度の調査研究についてご紹介します。前回申し上げましたが、当大学はこれまで学生がサポーターとしていろいろ勉強させていただくこともありましたし、また、放課後のこういう活動が豊かになっているかどうか、各コーディネーターの方々がすごくいろんな楽しい活動を紹介していただきますが、エビデンスとして客観的に効果があるかないかということを紹介するためには、やはり、変化を把握する尺度などをつくっていく必要があるということで、そういう研究もさせていただいております。

今年度はちょっと趣旨を変え、活動の中身を豊かにしていくための実践の研究というのをさせていただいております。1つは活動の内容をより豊かにしていける可能性ということで、これまであびっこクラ

ブの中では、子どもの実践を尊重して、どちらかという楽しい活動が中心だったと思いますが、これからは学習、今、自律的な学習というのもすごくテーマになって、楽しい自発的な学びというものもあってもいいんじゃないか。宿題をやらせるなどとは違って、今回提案していたのは、大人が最近、ぼけ防止で使っている脳トレ、こういうものを研究費の中で少し買わせていただいて、幾つかあびっ子クラブに置かせていただいて、高齢のサポーターの方たちに、よかったら子どもさんと暇だったら声をかけてやってみてもらえませんかというのをお願いしたものです。子どもにとっては勉強という形ではない、一種のパズルみたいな形なので楽しく活動できていたようです。

絶対こういう学習をしなければいけないというつもりではありませんが、逆に言うと、こういうものだって十分いい自主的な活動の一部になり得るというふうに肯定的に考えると、今、根戸小のサポーターのお父様かなんかも、子どもさんと楽しくやれる知恵のパズルのような、プリントをつくったりなさっているようなので、共有していけるといいのではないかと思います。

私は、京都の教育委員会さんが主催する放課後教室に何回か行っていますが、あちらでは教育委員会さんの主催なので、そうしたプリント類というのを共有して、全ての放課後教室間で使いたいものを使えるようにシステムをつくっています。各小学校のあびっ子クラブは、インターネットはつながってないでしょうか。インターネットが繋がればそれだけでもこういう教材ってお互いにやりとりできるなど。何か、システムづくりというのも今度可能かもしれないと思いました。

それから、今のは学習内容の話ですが、先ほどサポーターの人が地域から入っていてすごくいいという評判を市外からいただいたそうですが、サポーターの方がいい形で入ってこれるというのは、学童保育とはまた違うあびっ子クラブのよさの1つだと思っています。サポーターの方が入っていただけるためには、チャレンジタイムのようなわかりやすい活動だけではなくて、見守り、ふだんの活動をしていただけるサポーターも必要だなと思っています。

今回、我孫子市のシルバー人材センターさんに協力をお願いし、一小で主にやっていたらっしゃる方たちの活動を紹介するビデオをつくりました。4分ちよっとです。これは、そのサポーターの方たちがインタビューに答えてくださっている様子を中心に映したものです。

*** (DVD上映) ****

【委員】

こういう形で、サポーターという方たちがどんな形で入っていたらいいのかなどを少し見てもらえるような導入ものをつくったら、活用していただける道がないかという形でつくったので、こういう席でお見せしましたが、例えば、小学校であびっ子クラブができるときに、サポーターを募集するのでちよっと見せたいなどということがあれば、子ども支援課さんに差し上げていますので、コピーが欲しいなどと言っただけであればお渡しできると思います。多分、あびっ子クラブの中で、生き生きと色々なこと

をやりたいと思っている場があると思いますが、高齢者の方も含め、そういうところに置かせてもらって紹介していくのが一番いいのではないかと思います。私たちではまだ知恵がないので何か皆様からお知恵をいただければ、データを活用してもらえるチャンスがあるかなと思っています。これが先ほどの学習内容と続けて2番目の今回の取り組みでした。

それから、サポーターの方は毎回来ているわけではないので、どういうふうに入っているかというのを子どもにも伝えにくかったり、保護者の方にもわかりにくかったりするので、一応、応援グッズのパート3で、このようなチとサがついている大きなペナントをつくって贈呈してございます。「サとチって何」って子どもが聞いてきたら、「チャレンジタイムが今日あるんだよ」、「サポーターさんが来ているという印なの」といったことで、それを通じて会話が始まるといいなという願いで贈呈させていただきました。

でも、実際に来て見てみると、あびっ子クラブのお部屋はいっぱいいろんな情報があふれているので、こういうものをどこに設置したらいいのかみたいなことまで、とてもこちらは知恵が回らず、コーディネーターの皆様には逆にご迷惑をおかけしているかもしれないと気にしていますが、来ているということ伝えていくこと自身は悪いことではないと思うので、今後、使っていただければいいと思っています。

それから、最後に、今あるリソースをいい形で盛り込む活動の研究もしておりました。もともとこのあびっ子クラブというのも歴史的に考えると、子どもの居場所づくりとして、我孫子市は児童館がなかった中で学童保育室の児童が急増したような色々な事情を含めて、ある意味、悪い意味でいうとチープな形で始まっていたかも知れない。でも、私たち研究で全国のいろいろなところを見ると、やはり、我孫子って注目されてはいます。それはチープではなくエコになっている。小さい市ですから、この委員会もそうですが、みんな関係している人たちが知恵を出し合って情報を共有したり交換し合ったりできているので、いい形で小さいので小回りがきくところがとてもいいんだと思います。

先ほどの話に戻しますと、既にあるリソースとして、例えば我孫子は小学校の場所を活用して地域交流室というのが既にあります。その中で市民の方たちがいろいろな文化活動をしていらっしゃいます。こういう既にあるリソースとうまくつながるといいという思いがあって、一小でお声がけをさせていただきました。

チャレンジ祭りが一小であるので、そのときにあわせて、地域交流室の廊下の掲示板に作品を発表しませんかという呼び込みをさせていただきました。結構面倒くさくて、地域交流室の向かいの部屋は誰の掲示板なのかみたいな、実は学校の掲示板なので校長先生にご許可をいただきました。そういうところに許可をもらってお声かけすればいいという知恵がなかなかこちらがなくて、教育委員会にご迷惑をかけたり、校長先生にご迷惑をかけたりしましたが、声をかけましたら、やっぱり、最初は皆さん、「何、それ」という感じでした。自分たちは自分たちの活動をしているので、あわせて掲示板を使うのみたいな感じでしたが、一か所、書道でしたが、チャレンジ祭りの当日は廊下に掲示させていただきました。既にあるそういうリソースのところをいい形でつないでいける仕組みというのがまだ整っていないかもしれないと正直思い

ます。私も自身も放課後子ども研究会というもので、地域交流室を貸していただくとうございましたが、いっぱいなのでなかなか苦労しました。

でも、こういう形でたった1回ですが、やってみるとまだ知恵の出しようがあるのかもしれないと思います。それから、我孫子のいい意味のエコさみたいなものを生かして、今後、もし民営化等が入ってこようがこまいが、この地域のよさを生かして知恵を出し合って、実現できる仕組みというものをこういう委員会の中で整えていければいい形になるのではないかと。例えば、学習活動の内容だって、こんなふうにいるいろいろな知恵が出ていのですから、それを共有していくためには、じゃ、どんな仕組みが要るんだろうか。例えば、ネットを1個つくるだけでも大分違うかもしれないというような議論もできると思いますが、今つくったようなビデオ、つくってはみたけどどうやったら活用できるでしょうみたいなぜひお知恵をいただきたいですし、そしたらコピーして差し上げますし、あるいは今のように地域交流室、校長先生や、教育委員会の先生もいらっしゃいますから、どうやったらもっとうまく連携できるか、という知恵を今後も出し合っていければいいなと思っております。

長くなりました。以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ただいま一小あびっ子クラブのDVDを発表していただきました。これに関して何かご意見ご質問等ございますでしょうか。

【委員】 これは一部差し上げておきますので、もし、使ってみたいと思われましたらぜひ。あと、教育委員会から、例えば、あびっ子クラブのシニアのお元気な方でボランティアや、生涯学習に興味があるようなところのどこかの課で、もらってもいいとおっしゃっていただければ差し上げます。

【委員長】 では、生涯学習課さん。

【委員】 生涯学習課で公民館を持っており、公民館の中では長寿大学など、高齢者と比較的高齢な方を対象とした学級や講座をやっていますので、ぜひこのDVDを拝借して、授業の中でも機会を見つけて活用してもらえよう、公民館の担当にも伝えてみたいと思います。

【委員長】 ありがとうございます。ほかに何かございますか。

【委員】 あとは、地域交流教室も生涯学習課で地域の方々には開放していますので、今は子どもと一緒に活動している方々も使っていますが、そうでない、大人だけの活動だけで終わっているというところがかかりありますので、そういった方々にも機会を捉えてこちらからも子どもと交流するような、今、皆さんがやっている活動を生かして、子どもと交流できるようなことができないかそういったことは話しかけていきたいと思っています。そのときのためにもDVDをいただければと思います。

【委員長】 今、地域交流教室は何校ぐらいあるのでしょうか。

【委員】 5校6教室です。市内の小学校5校、東小は2教室あります。

【委員長】 子どもと交流する活動をするときには地域交流教室は無料でしたでしょうか。

【委員】 基本は今までは無料でしたが、昨年7月から小学校にエアコンが入りましたので、実費と

して電気代を1コマ100円いただくようになっています。ただし、子どもと活動しているものについては無料にしています。

【委員長】 ありがとうございます。ほかに何かございますか。本日の報告全てについて、ここでもう一度聞いておきたい等ありましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

【委員】 布佐小学校はまだあびっ子クラブがないのでほかの学校の様子がわからないのですが、うちの息子は発達障害があって今小学校の特別支援学級に通っています。ほかの小学校さんにも特別支援学級のお子様がいるとは思いますが、特別支援学級のお子様があびっ子クラブに通ってる方がいらっしゃるかどうかというの私は全くわからないのですが、ただ、あびっ子クラブのしおりを見ると、そういうお子さんはコーディネーターさんに相談してくださいと記載があるので、どの程度そういうお子様がいらっしゃるかどうかを知りたいなと思い、教えていただくことは可能でしょうか。

【委員長】 では各コーディネーターさんからご報告をお願いします。

【事務局】 湖北台東小学校には支援教室が3クラスあり、今登録されている支援学級のお子さんは1年生から6年生までいらっしゃいますが、大体8割ぐらいのお子さんが登録されています。登録していただいているお子さんは、年間を通じて100%の利用もあります。

コーディネーターに相談してほしいという一文は、自分で来て、自分で帰れるお子さんというのが基本になっています。身体的に何か手助けが必要なお子さんというのは、うちの場合は3階にありますのでちょっと難しかったりします。実際には手助けが必要なお子さんはいらっしゃらないですが、それが一番大きいかなと思います。そうでないお子さんはほとんど利用しています。時々、お母さん方がお茶会かなと思うんですが、そういうときにがばっと全員利用して来られることもあります。でも、それはそれであびっ子クラブの利用の仕方としてはお母さんたち上手だなと思うのでお引き受けしているということはありません。

東小の場合はそんなにもめることもなくやっています。時々手こずることもありますが、まあまあ大丈夫です。ほかのお子さんも仲よくできていますので、それほど心配されることはないのかなという感じです。

【委員】 ありがとうございます。

【委員長】 ほか、どうですか。

【事務局】 並木小も支援級が2クラスあり、登録はやはり8割ぐらいです。でも、ほとんどが学童保育室に通っているお子さんで、学童ではなく単純にあびっ子クラブだけの登録の支援級のお子さんは3名だけです。そのうち2人のお子さんはよく来られます。ただ、それも高学年のお子さんです。

やはり、1人で利用できるかというのが一番の問題だと思うのは、学童保育室というのは加配といってそのお子さんに対してスタッフを配置することができますが、あびっ子クラブの場合はいつ来るかわからない中でスタッフを手厚くすることが難しいために、ご自分のことはご自分でできるというのがま

ず一番だと思えます。今来ているお子さんたちはそれができているお子さんたちで、1人で帰ったり、お迎えだったりという形で利用しています。

学童保育室の子どもたちもあびっ子クラブに来ますが、特にあびっ子クラブに来てすごく大変ということは今のところはないです。支援が必要なお子さんが学童からあびっ子クラブに来るときにはスタッフもついてきますので、その辺のところでは大丈夫な状態でやっています。

【委員】 ありがとうございます。

【委員長】 どうですか、ほかの状況は。

【事務局】 根戸小は非常に児童数が多く、支援級は3クラスあります。人数はそれほど多くは登録していません。利用も1日1人、2人のお子さんがレギュラーで利用されています。やはり、利用するに当たり、そういった一文がありましたので、親御さんがご相談にいらっしゃいました。そのときに、身の回りのことが1人でできますかということをお伺いして、それがしっかりとできているというお話でしたので、自由に入出入りをして利用なさっているお子さんがいらっしゃいますし、親御さんが送迎している方もいらっしゃいます。加配がつけられないという事情がありますので、その子その子によって対応させていただくということを基本にしています。

【委員】 ありがとうございます。

【委員長】 ほかにどうですか。

【事務局】 三小も3クラス支援級があり、支援級のお子さんの3分の2ぐらいのお子さんが登録をされて、毎日のご利用されているお子さんと時々利用されているお子さんと、支援級の子どもたちだけでは、ほかのクラスのいろんな子と関わりたいと定期的に来ているお子さんがいます。

その中で、1年生のお子さんで、あびっ子クラブに来ると、子どもたちはみんな容赦しないので、時々、何するんだよとか、やめろとか、そういう強い言葉が出る中で生活をして、最初はぼろぼろと泣いていたのですが、嫌だったらやめてと言うのを少しずつもまれる中で強くなっていったなというような感覚を受けます。

支援級の先生方がすごくよくしてくださるので、学校でちょっと何かがあったときであびっ子クラブに来ているときはのぞきにきてくれたり、あびっ子クラブを利用する前に二、三回保護者の方が一緒に来てくださって、最初は1時間ぐらい、次にちょっと延ばして、3回目はちょっと離れたところにいてもらったりしながら少しずつ練習をして、最初は100%お迎えだったのが、だんだん、今日は4時になったら1人で帰ろうかという練習もしたりしながら過ごしているお子さんもいます。

以上です。

【委員長】 いかがですか。

【委員】 ありがとうございます。我孫子市は放課後デイサービスがほかの市町村さんに比べると充実しているので、そういう子どもを持っている親としてはとてもありがたく利用させてもらっているの

広げていただけると。やっぱり、子どもも社会と関わる機会をもたせてあげたいなと思っているので、また今後ともよろしくお願ひします。

【委員長】 ありがとうございます。ほかにございますか。

【委員】 湖北台東小PTAです。私の勉強不足でわからないのですが、周りのお母さんたち、同じ学校や、ほかの学校の保護者の方のお話を聞いていて、聞かれて答えられなかったのですが、その方はフルではなくてパートで週に2、3日のお仕事をされている方で、あびっ子クラブを子どもが週に2、3日ぐらい利用されているという方で、学童保育室に入れるほど自分は働いていないのであびっ子クラブを利用させていただいて本当に助かっていますということで、我孫子の周りのほかの市では、こういった放課後の学童以外の子どもを預けられる場所がない市もあるようなので、我孫子に住んでいてほんとうによかったというお話をしていました。

ちょっと欲を言えば、冬もあまり早く閉室をしないで、5時ぐらいまで、保護者の送迎があるという条件で預かっていただくことはできないのかという話になりました。あびっ子クラブの閉室時間は、冬の時期は4時か4時半といったかなり早い時間で、仕事がそこまでに終わらないという場合です。でも、暗くなってしまうので自分で帰らせるには危ないから、やっぱり、お迎えつきでということになってしまう、迎えに行くということを約束してという対応はやはり難しいのかなということがちょっと話題になったので、今すぐということではなくても、今後そういう方向性はあるのかということをお話していただけると。

【委員長】 学童保育はあくまでも保育する場所という、お子さんをお預かりする場所です。ですので、登室管理もしますし、親御さんにお迎えに来ていただくことを原則としています。

ただ、あびっ子クラブは学童保育とは違って、もともと文部科学省の事業で、学童保育は厚生労働省の事業ですが、あくまでも放課後の子どもの居場所ということで運営しています。ですので、登室管理もしませんし、登録してあれば来たいときに自由に来てそこで遊んで、あとは帰るときは、当然スタッフの皆さんに声をかけて帰るという形になっています。

ですので、今後もそういった時間を延ばすということも、保護者の方にお迎えに来てもらうということもないと思います。今の状況で運営していくというような形になるかなと思います。

【委員】 わかりました。その話をした方は、小学校にきょうだいでお子さんがいらっしゃるので、低学年の子は5時間で終わってしまうので、その時間あびっ子クラブにいて、高学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんは6時間目が終わってあびっ子クラブに迎えに行って、兄弟と一緒に下校するというふうにしているようでした。

【委員長】 今のところそういう状況です。ちなみに、この近隣でいうと、常設型とって毎日放課後子ども教室をやっているところは、まず我孫子市と、あと船橋市ぐらいで、他は週に1、2回、あるいは月に1、2回といったペースでやっていますので、結構その部分ではかなりみっちりやっているという

ころです。そういったところで申しわけありませんが、ご了承いただければと思います。

【委員】 いえいえ。でも、我孫子市の放課後の事業が充実しているので、我孫子市で子育てをしてよかったという話をしていました。ありがとうございます。

【委員長】 ほかにございますか。

それでは、これで本日の議事はすべて終わりました。最後に、その他について来年度の運営委員会についてですが、来年度も今年度と同じ3回実施を予定しております。時期については5月と10月と2月をめどに実施していきたいと思います。時間は午前中を予定しております。場所についてはまたその都度皆様にお知らせをしていきたいと思っております。

また、団体から選出されている方については、引き継ぎ及び来年度の人選といったことをお願いしたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

以上をもちまして、第3回放課後対策事業運営委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。